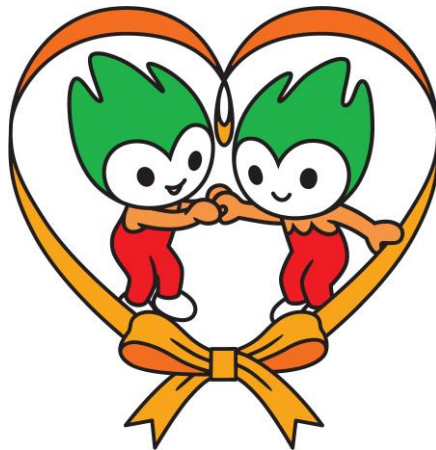


# 令和4年度オレンジパワー活用セミナー

～認知症の本人の視点や活動を

活かすための講座～

## 活動紹介集



山口県PR本部長 ちよるる【支え合いリボン】

山口県 長寿社会課

地域包括ケア推進班

## 活動紹介資料集 もくじ

1	「できる」「叶う」で見せる表情を共有	1
	山口県立こころの医療センター 坂井 聖恵／石原 弥生	
2	認知症月間 PR	2
	山口市鴻南地域包括支援センター 青山 尚子／大野 舞	
3	本人ミーティング (Happy Club)	5
	美祢市福祉課 藤井 菜都峰／河田 麻奈未	
4	認知症啓発活動	7
	光市基幹型地域包括支援センター 中村 雅子 光市東部地域包括支援センター 末岡 美和	
5	啓発活動等の取り組みについて	9
	山口市北東地域包括支援センター 栗田 瑞貴	
6	おれんじ図書館 in あいあむ	10
	平生町健康保険課 松村 妃紗 平生町高齢者地域包括支援センター 渡辺 あゆみ	
7	希望宣言周知活動	12
	宇部市西部第一地域包括支援センター 堀之内寿美恵／山田若葉	
8	子どもと一緒に♡認知症に優しい地域をつくりたい	14
	宇部市 南部第1地域包括支援センター 田邊順子／川村恭子	

9	認知症カフェ	17
	宇部市西部第2地域包括支援センター 福田 玲子/亥角 典子	
10	認知症になっても住みやすい街づくりを目指して	20
	山口市川西第2地域包括支援センター 星出 仁美/梅木 将成	
11	「今」を生きたい!～居場所、想いを紡ぐ～	21
	音楽療法士 緒方 倫子	
12	若年性認知症と共に生きるためのパートナーづくり	24
	認知症の人と家族の会萩ブロック 木村 恵子	
13	地域力!～中学生と一緒に紙芝居を作成～	27
	認知症カフェ「仁保の里山茶屋」 末永 光正 山口市北東第2地域包括支援センター 中村 由佳	
	〈参考資料〉 認知症の人とご家族から ～気づきや感想～	30

# 1 【「できる」「叶う」で見せる表情を共有】

所属・氏名	山口県立こころの医療センター・坂井聖恵/石原弥生
企画にあたって取り入れた本人の声や視点	「北海道旅行に行きたい」、「お店でラーメンが食べたい」
<b>活動内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> など	当院は BPSD 等の症状があり、在宅生活が困難で入院が必要とされる認知症の方が入院されている。集団での対応が難しいため、日々の煩雑で多忙な業務の中では「認知症」「BPSD で対応が大変な人」と見られ、「～したい」の思いも「無理」で片づけられることが多い。そこで、参加者の生育歴や背景を考慮した独自のプログラムを立ち上げ、少グループで実施している。プログラム内では普段見せない表情を見せてくれ、参加者も参加を楽しみに待つようになっている。 プログラムで見せた「できること」「良い表情を見せる場面」をピックアップしスタッフや家族に伝えることで、普段とは違った一面を共有することができ、対応にも変化が出た。
対象者や参加者の反応変化・本人の声	「北海道旅行に行きたい」→スライドや音楽等で北海道の雰囲気を作り、バーチャルな北海道旅行を楽しむ→状態が安定し、現実にあう語りが出る。
やってみて、よかったこと (結果や学び)	本人にあったプログラムは、日常生活の中では特殊な環境であるが、一時的にでも「できた」「叶った」ことは自己肯定感に繋がり、精神的な安定も図れる。
開催におけるポイントや注意点	
これから… (注力していきたいことなど)	一時的なものに終わらせないためにも、記事にして伝える（見える化）ことをしていく必要がある。



## 2 【認知症月間 PR】

<p>所属・氏名</p>	<p>山口市鴻南地域包括支援センター：青山・大野</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>アルツハイマー月間の展示に、「自分のありのままを伝えたい」「病気と向き合う姿を発信していきたい」と言う本人・家族の思いをまとめることを企画に取り入れた。</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>開催のきっかけや背景</b></p> <p>アルツハイマー月間の PR 活動として、認知症についての掲示内容を検討する際、若年性アルツハイマー型認知症で本人発信をしている本人との関わりも内容に入れたいと思った。また、今の本人の啓発活動や思いを記録に残すことで、本人の今のありのままを残していきたい。それが、認知症に対する理解のきっかけにもなり、今後の本人・家族の介護生活の役に立つことが出来ればと考えた。</p> <p><b>目指したこと</b></p> <p>今の本人がどんなことを思い、感じながら、生活・活動をしているのか記録に残す。</p> <p><b>行ったこと</b></p> <p>本人の思いと家族の思いを写真と一緒にまとめて掲示。(圏域交流センター)</p> <p>本人発信をまとめた DVD 作成。(作成中)</p> <p><b>関わったメンバー</b></p> <p>本人 本人家族 基幹型包括 生活支援コーディネーター</p>
<p>対象者や参加者の反応変化・本人の声</p>	<p>アルツハイマー月間の PR：圏域交流センターの展示場所に本人・家族が観に行かれ、「素敵につくってもらってありがとう」と感想を頂く。</p>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<p>本人の活動記録をするにあたり一緒に行動することで、得意分野(自分の思いを自由に話をする事、牧師としての活動、コーヒーを入れる時等)でのいきいきした動きを感じることが出来、好きなことが与える力のすごさを改めて感じた。また、活動を通して多くの人と関わっておられ、「自分が覚えていなくても自分事を覚えて話しかけてくれることがとてもうれしい」という言葉が印象的で、人と関わりを持つことの大切さを感じることが出来た。</p>

<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<p>認知症になって、戸惑い、大変な事もあるが、積極的に人と関わり活動的に動いているポジティブなイメージをどうやって伝えられるか何度も検討を繰り返した。</p>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<p>認知症サポーター養成講座でDVDを活用したい。 今回集めた情報を元に本人・家族に「自分史」を作成して渡したい。</p>
<p>備考</p>	





### 3 【本人ミーティング（Happy Club）】

<p><b>所属・氏名</b></p>	<p>美祢市福祉課 藤井 菜都峰・河田 麻奈未</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>「どこでもいいので、この会のみんなと一緒に出かけたい。」</p>
<p><b>活動内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>目的：家族と一緒に楽しい時間を過ごす。 季節を感じられるような内容にする。</p> <p>内容：市内の紅葉が美しいお寺や天然記念物に指定されている場所に行き、ハイキングを実施。</p> <p>参加メンバー：本人、家族、ボランティア、包括職員、かかりつけの病院職員、ケアマネージャー</p>
<p><b>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人「この歳でこんなきれいな場所に来られると思っていなかった。」「近いのに何十年ぶりに来た。」「とっても楽しかった、また行きましょう。」</li> <li>・参加者同士で誘い合って交流を楽しむ様子が見られた。</li> <li>・ご夫婦での参加が多く、久しぶりに奥さんの手作り弁当が食べられて嬉しそうだった。天気もよく屋外での食事に笑顔が多く見られた。</li> </ul>
<p><b>やってみて、よかったこと</b> (結果や学び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり地域の集いに出てこられなかった若年性認知症の本人・家族や、なかなかサービスにつながらない方も参加していただくことができた。その後の活動にも参加していただいております。</li> <li>・地域のボランティアさんにも多く参加してもらい、マンパワーが充実しており、安全に活動することができた。</li> <li>・参加者同士の交流がスムーズにできているような印象だった。</li> </ul>
<p><b>開催におけるポイントや注意点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に参加者の身体状況を把握し、散策ルートやトイレの場所をよく確認しておくこと。緊急時の対応の確認（かかりつけ医）、歩けなくなった場合に備えて車椅子を準備するなどの事前準備。</li> <li>・活動時の、支援する側とされる側がわからないような工夫。</li> </ul>



<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の診断があり、自由に外出することができなくなった方もおられ、年1回の外出の企画を楽しみにしている方が多いため、今後も継続していきたい。また、参加人数が増えているので、安全に活動できるよう地域のボランティアさんを積極的に活用したい。</li> <li>・普段の活動の中でも本人の声に耳を傾けて、本人のやりたいことを家族と一緒に実現させていきたい。</li> </ul>
<p>備 考</p>	

## 4 【認知症啓発活動】

所属・氏名	光市基幹型地域包括支援センター 中村 雅子 光市東部地域包括支援センター 末岡 美和
企画にあたって取り入れた本人の声や視点	認知症になったら終わりだ。近所の人に知られたくない。 認知症のことが知りたいと思っても必要な情報がどこにあるのかわからない。
活動内容 ・開催のきっかけや背景 ・目指したこと ・行ったこと ・関わったメンバー など	<p><b>活動のきっかけ・背景</b> 認知症に対する偏見が本人、家族、地域にあるため、認知症の正しい理解の啓発、地域包括支援センター等相談先の周知の必要性があると感じた。</p> <p><b>目指したこと</b> 多くの人に認知症の情報に触れる機会を持ってもらい、正しい理解を得てもらう。また、希望宣言書の掲示などを行い、広く認知症に対する相談先、プラスイメージの啓発を行っていくことを目指した。</p> <p><b>行ったこと</b> ※光市の認知症ケアパスは、市民の認知症の正しい知識の底上げと理解の周知において、偏見をなくすこと、自分ごとと捉えること、プラス思考の大切さを基本とした内容にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光市認知症ケアパスを関係機関等に配布した。</li> <li>・窓口相談時に光市認知症ケアパスを用い、認知症に対するイメージの転換を伝えた。</li> <li>・地域住民の集まる場において、認知症の啓発活動を行った。</li> <li>・9月のアルツハイマー月間に多くの方が目にする場所（図書館や総合福祉センターの廊下）などに認知症に関するものや希望宣言書を掲示した。また、アルツハイマー月間の掲示について、登録された市民に対して送るメール配信サービスで周知した。</li> <li>・転倒骨折予防教室にてタブレットを用いたもの忘れ相談プログラムを希望者に実施し、自身の認知機能への関心を高め、認知症に対する理解の普及、相談先の周知を行った。</li> </ul> <p><b>関わったメンバー</b> 東部・基幹型地域包括支援センター職員、図書館職員等</p>
対象者や参加者の反応 変化・本人の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物の前で立ち止まり、内容を読み込まれ、チラシを手取る方もいた。また、「今まで希望宣言書を見たことがなかったので、こんなのがあるんですね」という方もいた。</li> <li>・認知症ケアパスを見ながら「認知症になっても過ごし方で進行が変わってくるんですね。」という方もいた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本を読みたいと思っていたので、リストがあるのはありがたい。」</li> <li>・もの忘れ相談プログラム実施時、自身の認知機能は気になるが、検査結果が悪いかもしれないと参加を躊躇する姿が複数みられた。</li> <li>・もの忘れ相談プログラムをきっかけに周囲の人に家族の認知機能低下について話す参加者が見られた。</li> </ul>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい認知症観を伝えることで、認知症に対する印象を少し変えることができた。</li> <li>・「(家族の認知症について) 周囲に話したい、きっかけが欲しい」という潜在的なニーズがあると感じた。</li> </ul>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<p>日常業務の中で様々な機会を見つけ、認知症に関する普及啓発活動を行った。</p>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に対する偏見をなくし、プラスイメージに変えていくようにしていきたい。</li> <li>・当事者が安心して老いや認知症を受容できる地域づくりをしていきたい。</li> </ul> <p>⇒今後もいろいろな場面で認知症に対する正しい知識の普及啓発を図り、認知症サポーター養成講座を開催し、本人・家族が同じような状況の人と話ができるように認知症カフェの紹介や交流会なども開催していきたい。</p>
<p>備考</p>	

## 5 【啓発活動等の取り組みについて】

所属・氏名	山口市北東地域包括支援センター 栗田瑞貴
企画にあたって取り入れた本人の声や視点	山口市北東地域包括支援センターの活動としておこなったものです。
活動内容 ・開催のきっかけや背景 ・目指したこと ・行ったこと ・関わったメンバー など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界アルツハイマー月間における啓発活動啓発活動。</li> </ul> <p>ポスターとリーフレットを金融機関、医療機関、郵便局、学校、商業施設等に掲示。交流センターには認知症関連の書籍を併せて設置。職員向けの認知症サポーター養成講座の広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校にて4年生へ向けて劇方式で認知症サポーター養成講座を開催。</li> <li>・地域住民や民生委員向け認知症サポーター養成講座を開催。</li> <li>・認知症カフェへの参加</li> </ul>
対象者や参加者の反応 変化・本人の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーや銀行の職員へ認知症サポーター養成講座が開催できるか伺うも、「検討します。」との回答で忙しいこともありすぐには難しい様子。古い職員は実施したことがあるが新入職員は未受講が多い。</li> <li>・小学生への認知症サポーター養成講座は、終了後のお手紙をいただき、「認知症のことがすこしわかった。」「認知症の人にあったら優しくしたい。」など素直な感想が聞けた。</li> </ul>
やってみて、よかったこと (結果や学び)	今回、私自身が企画や参加する機会がなかったが、サポーター養成講座等を通して地域とのかかわりができたり、地域住民や学生の素直な感想を聞くことができた。
開催におけるポイントや注意点	
これから… (注力していきたいことなど)	学生を対象とした認知症サポーター養成講座の開催を続けていきたい。認知症カフェの充実や高齢者がよく利用する商業施設や銀行等の職員へ向けた啓発活動も必要であると感じた。
備考	

## 6 【おれんじ図書館 in あいあむ】

<p>所属・氏名</p>	<p>平生町健康保険課 松村 妃紗 平生町高齢者地域包括支援センター 渡辺 あゆみ</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>地域での認知症に対する理解を深め、“地域で安心して暮らしたい”という思いを支えていく。</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>【背景】 児童を対象にした認知症の普及・啓発の機会が少なく、様々な世代へ認知症の理解を深める機会が必要と考えた。</p> <p>【目指したこと】 様々な世代を対象に地域の中で認知症について知って頂く機会につなげることを目的とした。</p> <p>【行ったこと】 ・夏休み期間中の毎週水曜日に事務所のホールをフリースペースとして開放する“フリースペースあいあむ”の開催（他部署で企画）に合わせて、ホール内に認知症に関する書籍（児童向け）を展示する「おれんじ図書館」の開催を企画。おれんじ図書館のレイアウトには中高生ボランティアを募集し、関わって頂いた。また、ボランティアを受けて頂くにあたり、認知症サポーター養成講座も受講して頂いた。 ・9～10月には、「9月世界アルツハイマー月間」と合わせて、認知症の書籍を増やしホール内に継続して展示した。 ・おれんじ図書館の開催について、年3回発行している認知症総合支援事業情報紙“Tomos.”に掲載した。</p> <p>【関わったメンバー】 ・中高生ボランティアの方。 ・9～10月の書籍については、図書館に本の選定や貸し出しに協力を頂いた。</p>
<p>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</p>	<p>【おれんじ図書館の本を手にとった方の感想】 ・認知症を知らない男の子が認知症のおじいちゃんの気持ちを考えて行動するところに目頭があつくなりました。 ・子供にもわかる絵本があったので良かったです。親子で立ち寄ってみても面白いなと思いました。 ・認知症について、分かりやすく、面白く理解できる本がたくさんありました。 ・認知症の理解へのハードルを下げるいい取り組みだと思います。</p>

<p>やってみて、よかったです (結果や学び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•本を手にとった方から“この本は買えますか？”等の問い合わせがあり、関心の高さを感じた。</li> <li>•おれんじ図書館を通じて、介護に関する相談にもつながった。</li> <li>•今まで関わりの少なかった機関との関わりをもつことができた。</li> </ul>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•より多くの方に手に取っていただけるように書籍の選定など、図書館の方に協力を頂いた。</li> </ul>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•児童を対象にした認知症の理解を深める機会が少ないため、色々な世代の方を対象にした認知症の理解を深める機会を作りたい。</li> </ul>

大丈夫だと声かけしていきたいです

周りの助けが重要と思いました。



認知症サポーター養成講座の様子



おれんじ図書館の様子

— 平生町認知症協会支識事報情報紙 — 2022.10 第 3 号

**Tomos.**

発行 平生町高齢者保健福祉センター  
〒475-0006  
Tel: 56-8020  
Fax: 56-8020  
mail: choukatsu@hiseo-shakyo.or.jp

**News 1 認知症サポーター養成講座 - ほかにも、わたしたちができること - 開催**

認知症サポーターは、認知症について正しく知り、認知症のある方や家族の方をあたたく見守る「応援者」です。  
「認知症サポーター養成講座」は、認知症について正しく理解し、誰もが暮らしやすい地域づくりをしていく運動として平成17年から全国で実施されています。平生町でも定員1,037人の方が認知症サポーターとなられています(14年6月末現在)。この夏には小学生、高校生の方が認知症についての基礎知識などを学びました。

受講された方には認知症サポーターの証として「認知症サポーターカード」をお渡ししています。  
認知症サポーター養成講座は、出張講座も行っております。お気軽にお声掛けください。

お口の機能が衰えてきました  
「大丈夫だよ」と声をかけました

**2 おれんじ図書館 in OPEN**

認知症サポーター養成講座を受講されたサポーターさんと「おれんじ図書館」をつくり、認知症に関する絵本や本の展示を行いました。

おれんじ図書館は「9月世界アルツハイマー月間」に合わせて10月末まであいあひで開催しています。  
本を通して、認知症についてかんがえてみませんか。

**読書図書(一冊)**  
- はあはあ、おれんじよ  
- ぼくのあひちゃん  
- 七つ子のとっぴん  
- なんていうか、うんぽ  
- 花のふんわり  
- あいアヒル  
- おれんじの季節  
- 認知症家族の生き方 など

ここに掲載しました！

Tomos. (年3回 発行)

## 7 【希望宣言周知活動】

<p>所属・氏名</p>	<p>宇部市西部第一地域包括支援センター 堀之内寿美恵、山田若葉</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>2日間の研修を通して学んだ本人が持つ思いや希望、前向きな姿勢。</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>開催のきっかけ：地域の人権学習会行事の一環として認知症サポーター養成講座の申し込みがあった。希望宣言は認知症の方の権利にもつながるものと考え今回のサポーター養成講座と合わせて啓発していくこととした。</p> <p>目指したこと：認知症に対する古い考え方、マイナスのイメージを払拭し、新しい認知症観をもてる。</p> <p>認知症の本人が、希望や思いを発信でき、実践できる地域を作る。</p> <p>行ったこと：認知症サポーター養成講座を令和4年8月9日に開催した。</p> <p>&lt;講座内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座</li> <li>・希望宣言紹介</li> <li>・コグニサイズ</li> <li>・アンケート</li> </ul> <p>&lt;関わったメンバー&gt;</p> <p>人権学習会メンバー、地域会館関係者、西部第一地域包括支援センター</p>
<p>対象者や参加者の反応変化・本人の声</p>	<p>参加者：40名（ほぼ60代以上の女性） 希望宣言について知っていた方は、3名 アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人にやさしく声をかけようと思います。</li> <li>・前向きに楽しく生活をする。</li> <li>・認知症にかかっている当事者が努力されていることに感心しました。</li> <li>・認知症は恥ずかしいことではない。</li> <li>・常識にとらわれず困った人を手助けしたい。</li> <li>・自分の未来これから先を考える一助となりました。</li> <li>・前向きに、前向きに。</li> <li>・明日の自分の姿と思い、共に幸せに暮らせる努力をします。</li> <li>・出来なくなったことより出来ること、やりたいことを大切に</li> </ul>

	<p>ていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望宣言 4 の味方になってくれる人を見つけるのが難しい。</li> </ul>
<p>やってみて、よ かったこと (結果や学び)</p>	<p>希望宣言について、初めて読んだという方が多く、今回の講座で啓発することができた。アンケートからは前向きな発言も多くイメージの転換が少し図れたのではないかと思う。一方で味方になってくれる人を見つけるのが難しいという意見もあり、認知症サポーターをより増やしていく必要性を感じた。</p>
<p>開催における ポイントや注 意点</p>	<p>集合形式の場合は、新型コロナ感染症予防対策の徹底。認知症施策の動向も踏まえながら希望宣言を啓発する。</p>
<p>これから… (注力してい きたいこと など)</p>	<p>若い方への認知症サポーター養成講座の開催、希望宣言の啓発。書面だけではなく、認知症本人の声を直接聴く機会を持つ。</p>
<p>備 考</p>	



## 8 【子どもと一緒に♡認知症に優しい地域をつくりたい】

<p>所属・氏名</p>	<p>宇部市 南部第1地域包括支援センター 田邊順子 川村恭子</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>●子どもへの認知症学習会の実施</p> <p><b>開催のきっかけ</b></p> <p>夏休みの学童保育利用中の児童に、ワークショップの一環として認知症学習会の依頼があったため、開催した。(コロナ禍の中、子供たちの中に出向くことに躊躇があり、なかなかアクションが起これなかつた、先方より要請があったため、良いチャンスに恵まれた)</p> <p><b>目指したこと</b></p> <p>高齢者や認知症を知り、思いやりの心を学んでもらいたい。地域に目をむける姿勢をもってほしい。そして、高齢者や認知症について理解してほしい。また、子どもたちが、学んだことを家庭で話すことで、参加した子どもの家族にも高齢者や認知症に興味をもってもらおうことを目指す。</p> <p><b>行ったこと</b></p> <p>夏休み期間中で学童利用中の希望した児童に、2回シリーズで認知症の学習会や声かけ訓練を行なった。(コロナウイルスの感染者多く、申し込みは30人ほどあったが、参加者は少なかった。) *参加の申し込みは保護者を通じて行った。</p> <p>場所：恩田小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 令和4年8月9日 参加児童10人 高齢者のイメージ 高齢者とは(クイズ形式で) 感想を発表</li> <li>・2回目 令和4年8月12日 参加児童12人 認知症の方(帰れなくて困ってる人)への声のかけ方や対応方法(実際に声掛けをやる)・絵本の朗読「おばあちゃんのノート」</li> </ul> <p><b>関わったメンバー</b> 学童保育の指導者 宇部市地域保健福祉支援チーム保健師 地域包括支援センター</p>
<p>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</p>	<p>参加した児童に感想を記入してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。勉強になりました。(4年女子)</li> <li>・いろんなことを学んで楽しかった(3年男子)</li> <li>・お年寄りに声をいっぱいかけたいです。(2年男子)</li> <li>・練習でおばあちゃんに声をかけたら喜んでくれて、うれしくなった。これからも困ったお年寄りがいいたら助けてあげたい。(4年女子)</li> <li>・話しかけてみて、話しかける勇気が持てた。今度こまっているお</li> </ul>

	<p>ばあちゃんがいたら話しかけられそう。(4年女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしかったけど楽しかった。やさしくしたらいいんだな(2年女子)</li> <li>・楽しかった。(1年男子)</li> <li>・声かけられそう(3年女子)</li> <li>・声掛けが難しかった。(2年女子)</li> <li>・自分のおばあちゃんは元気だから知らなかった。(3年女子)</li> <li>・今度こそ声をかけられそう(1年女子)</li> </ul> <p>♡声掛けは緊張した子も多かったようですが、台本を用意したので、楽しんでできました。</p>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けの学習会は、初めてで戸惑いもあったが、素直にとっても興味深く聞いてくれていた。しかし、集中力がもたないため、視覚などで訴えることの重要性や 講話ばかりでは難しいことがわかった。</li> <li>・コロナの影響で、参加者は少なかったが、申し込みは多数あったため、保護者世代も認知症に関心があることがわかった。保護者も、認知症の方や地域に優しい子どもに育ててほしいと思っているのではないかと感じ、その期待に応えていかなくてはいけないと思った。</li> <li>・生活の中に高齢者のいない子どもも多く、高齢者や認知症の理解をイメージ(見た目)としてではなく、どのように、ひとりの人として理解していくのか。 高齢者・認知症理解につながるようなプログラムを考えていきたい。</li> </ul>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、高齢者に苦手意識をもたないように、楽しく学べるように考えた。</li> </ul>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童の子どもだけでなく、地域の子もたちが認知症について学べる機会を広げていきたい。</li> <li>・来年度は、地域の住民も一緒に企画し、開催することで、地域と、子どもたちの関わりが強くなるようにしていきたい。チームオレンジの活動としても取り組めれば良いと考えている。(子どもと地域での交流やコミュニケーションを継続的に行うことで、高齢者や認知症の方をイメージではなく理解してもらいたい。)</li> </ul>
<p>備考</p>	<p>参加児童の内訳</p> <p>1回目 10人(1年生3人・2年生3人・4年生4人)</p> <p>2回目 12人(1年生4人・2年生4人・3年生2人・4年生2人)</p>

# 学習会の様子



みんなで高齢者の特徴について話し合いをして発表しました



「おばあちゃんのノート」という  
わすれんぼの おばあちゃんの本をみんなで読みました

困っている人に  
上手に声掛けができました！

たいへん  
よかったです  
ました。



## 9 【認知症カフェ】

<b>所属・氏名</b>	宇部市西部第2 地域包括支援センター 福田、亥角
<b>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</b>	企画の段階では、本人の声や視点を取り入れてないです。
<b>活動内容</b>  ・開催のきっかけや背景 ・目指したこと ・行ったこと ・関わったメンバー など	<p>(開催のきっかけ) 6年前から年2回開催。開催のきっかけは、担当地域に認知症カフェがないため、隣地区担当の包括と合同で開催を始めた。 (今回目指したいこと) プラチナサポーターの方に企画から参加して頂き、「コロナ禍で、話す機会が減ったような気がする。5感を刺激するような、音読レクなどはどうか？」という提案に沿って開催した。 (関わったメンバー) プラチナサポーター、作業療法士、地区担当保健師、グループホーム</p>
<b>対象者や参加者の反応変化・本人の声</b>	<p>(参加者の声) ・昔ばなしを音読した内容を、自宅に帰り家族に話すことで会話のきっかけになった。 ・楽しかった。また参加したい。</p>
<b>やってみて、よかったこと</b> (結果や学び)	<p>・参加者よりゲーム内容を「クイズ形式にするのはどうか？」と発信があり、参加型レクを実施することが出来た。 ・「臭い」「触る」等の5感を刺激するテーマで実施したことが、認知症の方には楽しく脳の刺激になるきっかけに繋がった。</p>
<b>開催におけるポイントや注意点</b>	今までは、主催者側が決めたレクを実施していたが、今回は、プラチナサポーターの方に考えてもらい、参加者からの案で、ゲーム内容を変更するなど、参加型カフェが実施出来て良かった。
<b>これから…</b> (注力していきたいことなど)	・企画段階から、本人声や視点が入っていない為、今後開催する際には取り入れていきたい。
<b>備考</b>	・年2回という不定期開催の為、参加者が集まりにくいのが現状。今後は、定期的に行えるようにして参加者人数を増やしていきたい。

# おれんじがぞく

第13回

「おれんじがぞく」は、物忘れが気になる方、認知症の家族を介護されている方など、どなたでも参加できる楽しい場所です。皆さんで、脳トレやゲーム、悩みごとの相談、情報交換などを行い、楽しいひと時を過ごしましょう。

**日時**：令和4年10月26日（水）13：30～15：00

**場所**：グループホーム和らぎ ぐび 交流スペース  
(ゆめタウン宇部店横、寿光園前)

**駐車場**：寿光園駐車場をご利用下さい。

**対象者**：認知症の方ご本人とご家族を中心に、  
西宇部・厚南・黒石・原地区にお住まいの方…  
どなたでも参加可能です。

※コロナウイルス感染対策の為、マスク各自着用をお願いします。

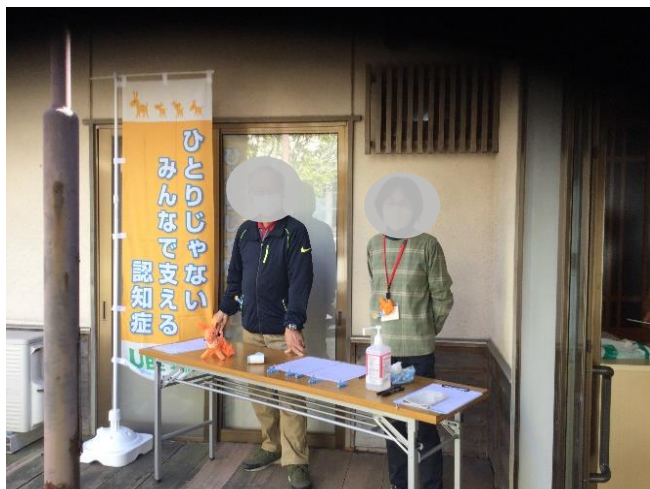
～おれんじがぞくプログラム～

認知症のことや、介護の工夫などの情報交換、悩み等を気軽に経験者に相談してみませんか？	脳トレや、5感を刺激する！ゲームなどを予定しています♪お楽しみに！！	感染対策を行いながら、ほっこりとした時間を過ごしましょう♪
--	------------------------------------	-------------------------------

申込み・問い合わせ先

✦ 西部第1高齢者総合相談センター（西宇部・厚南にお住まいの方） tel：45-3969

✦ 西部第2高齢者総合相談センター（黒石・原にお住まいの方） tel：43-9307





## 10 【認知症になっても住みやすい街づくりを目指して】

所属・氏名	川西第2地域包括支援センター 星出・梅木
企画にあたって取り入れた本人の声や視点	活動実行まで行えていない。
<b>活動内容</b> ・開催のきっかけや背景 ・目指したこと ・行ったこと ・関わったメンバー など	<b>【計画の内容・活動内容の見直し】</b> ・若年性認知症の方（新規）との関わりを持つことが出来た。 ⇒本人の集い、家族の集いを紹介した。 ・認知症カフェ未設置地区での設置に向けた声掛け ⇒既に、“子ども食堂”をされているところへ声掛け。今年度中に設置に向けた具体的な話し合いの場を持ち、来年度実行できればと検討。 ・活動中の認知症カフェに参加し、参加者との交流を図った。 ⇒来年以降、当事業所近くに認知症カフェ運営団体の活動拠点が新たにできる予定のため、より緊密に関係を図れたらと検討中。 ・アルツハイマー月間で地域住民への啓発として事業所前で“オレンジガーデン”を新規に実施。 ⇒来年度は、地域の関係団体ともコラボが出来ればと検討している。
対象者や参加者の反応変化・本人の声	・認知症カフェ設置に向けた声掛けでは、地域での活動をしたいとの好感触であった。
やってみて、よかったこと（結果や学び）	・実際に当事者と会い、関わりを持つことがまずは大切だと改めて感じた。 ・地域への周知も声掛けだけではなく、目に見える形での周知をすることで、より多くの人に知ってもらおうきっかけとなった。
開催におけるポイントや注意点	・設置に向けた動きの中で、実際に活動をされる団体以外にも話を行い、協力や周知をしておくことで、よりスムーズに話を進めていくことが出来ると感じる。
これから…（注力していきたいことなど）	・継続して認知症カフェ未設置地区への声掛けの継続と、立ち上げの支援等について、事業所内はもちろん、活動していただく団体とも緊密に関係が持てるように注力したい。
備考	・認知症カフェ設置に向けて、どこまでの支援をしたらよいのか。 ・設置後の関わりをどこまで行っておられるか。

## 11 【「今」を生きたい！～居場所、想いを紡ぐ～】

<p>所属・氏名</p>	<p>緒方 倫子（音楽療法士）</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>これから先の不安、今の不安 （独居、病気、孤独、モヤモヤ、家族関係、社会情勢等）</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 開催のきっかけや背景</li> <li>• 目指したこと</li> <li>• 行ったこと</li> <li>• 関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>【きっかけ・背景】 認知症カフェに参加した人やボランティアとして関わった人が、自分たちの今の不安や今後の不安を抱え、そして、居場所（出かけて場所）がなく、孤立や孤独を感じていることが分かった。 「何かできるならやりたい！」そんな声から始まった。 「認知症とともに生きる希望宣言」をしり、認知症になる前から、この視点は大切なものではないかと感じた。</p> <p>【目標（ビジョン）】 「人と人」「人とももの」が繋がり、自分たちが居心地の良い場所を創る。心で繋がる「こころの家族」づくりを目指し、地域の中で自分らしく生きること、そして未来も住む続けたい地域を自分たちで創り上げていく。 認知症になってからも自分らしく暮らすために、「今」から地域に基盤を創ることで、自分を気にかけてくれる人があちらこちらに存在することを目指す。</p> <p>【目標（具体的）】 ☆自分の役割がある・新しい事への挑戦・出来ることは積極的に、出来ないことは無理しない「お互い様」の関係作り。 ☆選択肢がある場所づくりをし、自分で決めることを大切にする。 ☆自分を大切に、そして相手も大切に。 ☆「今」を大切にする。自分史と活動史を残し、過去と未来を紡いで行く。お互いの存在を語れる関係性づくり。「今」を自分らしく生きること未来を見据える、そして過去の自分に感謝する。</p> <p>【実施内容】 ① 活動当初は、食を通し、参加者同士の交流を深めた。 「参加者がみんな決め合う」（月一回定期開催・約1年半） ② これまで活動した場所が使用できなくなり、同時に、コロナ感染をきっかけに活動休止。（約半年）※セミナー1回目の地点</p>



	<p>→休止中、メンバーより「このまま家からでることもなく月日が終わっていくのはいやだ」「こんなときだからこそ、集まる必要があるんじゃないのか」「もう一度、活動を見直したい」と声があがり始める。</p> <p>→新たな場所の確定。内容については参加者の意見交換を実施 参加者意見：「決まった人がすべてを担うには負担になる」 「自分の当番があるなら、負担になるから辞めたい」 「できることがあれば協力したい」「今のままが嬉しい」等</p> <p>③ 企画者（ばあ～ばあ～' S）と参加者を分けた活動（メンバーズcafe「たんぼぼ」）開始。 これまで同様、お菓子作りやものづくりを会話のきっかけとして毎回開催。<u>たんぼぼ参加者：地域住民 30～80 代の約 9 名</u></p> <p>④ 子ども食堂や認知症カフェなど、外部からの依頼でお菓子作りを実施。外部との連携や繋がりを通して、やりがいと達成感を習得する新たな活動の第一歩を開始。（2022 年 10～）</p> <p>【メンバー】 ばあ～ばあ～' S：認知症カフェ参加&amp;ボランティア参加者と意欲ある地域住民 4 名でスタート</p>
<p>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</p>	<p>違うところでの関わりをもつ参加者も、この会ではまた違う一面を見ることが出来ている。</p> <p>色んな事への挑戦や新たな発見、気づきが出来て楽しいとの声や、会での内容を家で復習したり、友人や家族に披露しているとの事。家族との会話のきっかけにもなり、遠く離れる家族が参加者の日常を知るきっかけともなっている様子。</p>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<p>すべて。無駄なことなことはなかった。みんなで常に話し合っ、意見もぶつけ合っ創り上げてきたので、これからも、何かあってもこの方法は変えず、みんなが「自分」で居られる場所を創ることを継続していきたい。記録残しとして写真や SNS 活用で、いつでも過去を振り返り、「紡ぐ」作業を常時行うことが出来た。</p>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<p>リーダーは必要だが、リーダーがすべてを決めない。</p> <p>いい意見も悪い意見も言える環境作り。去る者も追わない。でも、「いつでも帰ってきてね」というメッセージは伝える。気になることは言葉にし合う。内容も金銭面でも無理はしない。出来ることをする。出来るようにみんなで考える。負担の平等化。</p>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<p>もっと、いつでも気軽に立ち寄れるような「近所のおばちゃん家」を目指し、場所探し中。また、新たな事業として、「オープンcafé」（地域のだれもが立ち寄れる居場所）も計画。</p>

主催：ばあ～ばあ～

**たんぽぽ参加者募集チラシ**

メンバーズ Cafe

**「たんぽぽ」参加者募集中!!**

～毎月1回、かんたんのできるお菓子づくりやものづくりをしながら  
仲間とともに楽しい時間を過ごせる「クラブ活動」のような場です～

♥開催日時：毎月第3火曜日  
13：15～15：00  
(2022年予定 10/18・11/15・12/20)

♥参加費：400円（材料費・会場費）  
※要申込（開催日の5日前まで）

♥申込み・問合せ先：TEL [REDACTED]  
E-mail babas.toiwase2022@gmail.com

★いつでも参加できるときでいいですよ～♪★

ばあ～ばあ～とは…

「人と人」「人ともの」がつながり、自分たちが居心地の良い場所を創りたいとの想いでグループを立ち上げました。家族ではないけど、こころが繋がる「こころの家族」が自分たちの住む地域にあつたらなあ…

いくつも自分の居場所といえる場所がほしいなあ…

ばあ（場）～（と）ばあ（場）～を繋ぐ・つくることを「ばあ～ばあ～」が叶えていきたいと思っています！みなさまの「幸せ」「安心」と思える場所が増えますように…




⑤ 外部との活動



**【参加者の会話の一部】(SNS 記録より)**

「最近はやーもの忘れる。ごめんね、町中で会ってもわからんかもしれん、ごめんね！」

「そんなことはよくある事だから、気にせんの！笑」

「こんなところがあるのが一人暮らしの自分にとつたら嬉しい」

「こんな場所が増えたら嬉しいけど、やってくれるような人はどこにおるのかね？」

「これから最期のこともしっかり自分で考えんといけんね」

「家では出来んこと出来てうれしいね～」「これからも続けてね」「声かけてね」

「このまま一人暮らしできようか。娘が心配しとる」「娘にいろいろ言われる」

「まだまだ知らんことがいっぱいあるね～楽しいね、嬉しいね～」

## 12 【若年性認知症と共に生きるためのパートナーづくり】

<p>所属・氏名</p>	<p>認知症の人と家族の会萩ブロック 木村 恵子</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>【若年認知症当事者 A 氏の声】 →認知症になったら何もできないではない。これからやってみようことある。 「カフェを開催する側になりたい。カフェでコーヒーを入れたい。」 「旅をしたい。」 【視点】 「認知症を理解し合える人と出会い、繋がり、共に生きる」</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催のきっかけや背景</li> <li>・目指したこと</li> <li>・行ったこと</li> <li>・関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>【開催のきっかけ】 認知症の人と家族の会山口県支部が、県の委託事業「若年性認知症の人のための居場所づくり」の依頼を受け、令和4年12月4日に萩市にて「若年性認知症の人のためのカフェ」の開催を目指したことがきっかけとなる。 カフェ開催にあたり、萩市民の方に若年性認知症の理解を深めることを目的として、令和4年9月19日に萩市松蔭神社立志殿にて「若年性認知症と共に生きる」と題して、講演会開催を企画するが、台風のため中止となる。 【目指したこと】 認知症カフェに来られる方は、認知症当事者及び認知症について理解ある方々と察する。様々な職種の方・様々な趣味を持つ方・様々な認知症介護をされてこられた方など、さまざまに人生を歩んでこられた方の集まりとなる。参加者皆がそれぞれの人生の主人公である。様々な主人公の集まりの中で、若年認知症当事者のパートナーづくりの場となることを目指した。 【行ったこと・関わったメンバー】 認知症当事者が理解し合えるパートナーと出会うためには、ゆっくりと語りあえる場が必要であるが、初回開催であったため互いを知り合うきっかけとなるように環境を整えた。 音楽は言葉の垣根を越える。知らない人同士が、同じ空間で同じ音楽を共感し合うことで一体感が得られる不思議な力がある。ギターの得意な方にギター演奏と歌を披露していただいた。 お菓子は緊張した心を解きほぐす不思議な力があり、人とのコミュニケーションを図る上に欠かせないものである。手作りお菓子グループ「タンポポ」の方々にお菓子の提供をしていただいた。</p>

	<p>萩市のみならず、市外へもお手玉づくりに欠かせない数珠球を探し求め、お手玉を継承される方に、お手玉遊びを披露していただく。若年性認知症当事者の A 氏は、「母親が得意だった」と、お母様との思い出を語ってくださる。「今度は私も練習して出来るようになっておく」と発言される。</p> <p>他に油絵が得意な方の参加もあり、日頃目にする事の出来ない作品に触れることができた。</p>
<p>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</p>	<p>当時者 A 氏：若い頃ギターを弾いていた。再チャレンジしよう。</p> <p>他参加者：若い頃よく聞いていた歌だった。当時の自分に戻った。</p> <p>当事者 A 氏：お手玉は母親が得意だった。母親のように上手になるようにこれから練習しよう。</p> <p>他参加者：懐かしい。自分もやってみたい。</p> <p>作り立てのお菓子が届いたときは、一斉に歓声が上がり「はじめまして」の緊張がほぐれ一気に場が和んだ。何種類もの手作りお菓子を前に、自然と皆笑顔になり話が弾んだ。</p>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<p>カフェにて、非日常的なギター演奏や手作りお菓子、お手玉、絵画との出会いによって、眠っていた潜在意識を呼び起こすこともできよかったと思う。また、会話にきっかけともなり出会いが深まったように思う。</p> <p>参加者其々が得意なことを披露し主役となることで、その方々自身も、生かされ互いに相乗効果となると感じた。</p> <p>遠くでお茶を飲みお菓子を召し上がり、静かにみているだけの方もおられた。出入りは自由としていたが、中座することなく最後までおられた。不愉快な空間ではなかったようで安心した。</p>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<p>萩市において「若年性認知症の人のためのカフェ」は、初の試みであった。萩市在住の若年性認知症の当事者の参加の確認はとれていない。「もしかして、認知症ではないか？」と自身で疑っても、医療機関で受診をしてきちんと診断されないと、「認知症当事者」とはならない。いずれは皆認知症になると思っている。早いか遅いかの違い。表面化し生活に支障があるかないかによる。認知症の有無は問わずの開催とした。</p>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<p>県の委託を得て、認知症の人と家族の会山口県支部は、年3回カフェを開催している。令和4年度、3回の内の1回が萩市での開催となったが、今後定期的に継続されることを願う。</p>
<p>備考</p>	

2022. 12. 4.

## 若年認知症の人のためのカフェふしの in 萩



### 13 【地域力！～中学生と一緒に紙芝居を作成～】

<p>所属・氏名</p>	<p>認知症カフェ「仁保の里山茶屋」 末永光正          山口市北東第2地域包括支援センター 中村由佳</p>
<p>企画にあたって取り入れた本人の声や視点</p>	<p>本人・家族と打ち合わせを重ね、夫婦への理解を深めた。介護日記に書かれている出来事や、妻に対する夫の気持ちの変化を取り入れ、夫婦の温かさを引き出せるようにした。</p>
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 開催のきっかけや背景</li> <li>• 目指したこと</li> <li>• 行ったこと</li> <li>• 関わったメンバー</li> </ul> <p>など</p>	<p>【開催のきっかけや背景】</p> <p>モデルとなった夫婦と地域包括支援センター、認知症カフェともに関りがあり、いつか介護日記（認知症の妻を支える夫の気持ちや出来事を書いているもの）を人々に知ってもらえる機会があればと思っていた。</p> <p>オレンジパワー活用セミナーに参加し、他参加者が「小学生向けに紙芝居をする」という意見を参考に、仁保でも住民に向けて紙芝居を作成し、認知症を知ってもらえる機会があればと思った。</p> <p>【目指したこと】</p> <p>認知症になっても、家族や友人ご近所の手助けがあれば安心して自分らしく生活できるということ、認知症になっても新しいことにも挑戦できるということを伝える。</p> <p>【行ったこと】</p> <p>本人や家族に生活歴や趣味、思い出や日常の様子の写真を見せてもらいながら話を聞く機会を作り、介護日記と合わせて原稿を二人で分担して考えた。原稿は本人・家族や認知症カフェメンバーにも意見を聞きながら修正を重ねた。認知症カフェメンバーとの打ち合わせ時に「紙芝居の絵については中学生に絵を描いてもらうのはどうだろうか」と認知症カフェメンバーでもある主任児童委員から意見が出て、主任児童委員を通じて仁保中学校とアポイントとってもらい、交渉に伺った。校長先生、教頭先生、顧問の先生との打ち合わせを経て、総合文化部の部員と本人、家族、認知症カフェメンバー、地域包括支援センターで顔合わせを行い、原稿、写真、モデル夫婦との会話から作成にあたってのイメージの共有をした。</p> <p>現在、総合文化部が原稿を元に下絵を制作中。R5年3月末までの完成を目指している。</p>

	<p>【関わったメンバー】 仁保中学校総合文化部、認知症カフェ「仁保の里山茶屋」、北東第2地域包括支援センター</p>
<p>対象者や参加者の反応 変化・本人の声</p>	<p>本人・家族には、紙芝居を制作するにあって事前に賛同をもらい、中学生との打ちあわせにも参加してもらい、完成を楽しみにされている。</p> <p>仁保中学校には、部活の一つとして参加してもらい仁保中学校の全面的なご協力をいただいた。総合文化部部員、校長先生、教頭先生、顧問の先生も熱心に取り組んでいただいた。</p> <p>紙芝居の制作にあたって注意した点は、地域の中学校との連携。</p>
<p>やってみて、よかったこと (結果や学び)</p>	<p>(未永) 認知症カフェの活動として、中学校との地域連携の基礎ができたこと。制作段階に認知症本人にも参加してもらい、原稿のチェックや中学生と作画の打ち合わせにも参加していただいたこと。</p> <p>(中村) 住民の方と一緒に認知症の普及啓発のための紙芝居の作成ができたことで、地域力を発揮し輪が広がったこと。</p>
<p>開催におけるポイントや注意点</p>	<p>制作を進めるにあたって、随時本人・家族に意見を聞いたこと。関係者の協働のスタンスを大切にしたこと。</p>
<p>これから… (注力していきたいことなど)</p>	<p>(未永) 地域の認知症の理解のために今回制作した紙芝居を使って普及啓発をしていきたい。例えば、地域のいきいきサロン等での紙芝居を使って地域の支え合いのありかたについてのワークショップを行い地域支援のシステムを作るツールに出来ればと思います。</p> <p>(中村) いくつになっても住み続けられる仁保地域を目指すために、認知症への理解を広め、作成した紙芝居を複製し多くの場面で発信し活用する。認知症サポーター養成講座でも活用していきたい。</p>
<p>備考</p>	

① 認知症カフェメンバーで紙芝居原稿案の打ち合わせ



② 仁保中学校で中学生と紙芝居の内容と絵のイメージの打ち合わせ  
(本人・家族とともに)



③ 中学生が制作した紙芝居の下絵案





# 認知症の人とご家族から…

## ～気づきや感想～

第2回セミナーでメッセージをいただいた認知症の方（お一人）と  
そのご家族に皆さんの取組みを紹介し、気づきや感想をいただきました。  
気づきの一つとして、受け止めていただけると幸いです。



### 1 「できる」「叶う」で見せる表情を共有

- ・ 実際に行くことはできなくても、叶えようと工夫をしてくれることがうれしい。
- ・ 前にニュースで、旅行会社の企画で、旅先の画面を見ながら、料理人を呼んでみんなでご当地グルメを食べたというのが流れていた。  
音楽もいいし、…例えば北海道なら、雪の温度で寒さを感じたり、ラーメンとか出てきて、現地の雰囲気がたくさん感じられたら楽しそう。

### 2 認知症月間PR

- ・ 地区の3か所でこんなふうに取り上げてもらった。こんな風にしてもらえて励みになる。
- ・ （家族の立場）DVDのため？に若いときからの写真はないですか？昔からのことをまとめようとしてくださっている。主人のことを残せたらと思っても、自分では残せないものを築いてくれるのは、いいなと思った。

### 3 本人ミーティング (Happy Club)

- ・ 「やりたい」という声に答えて、叶えられているのがすごい。
- ・ 一緒にいく人（職員）も、企画するとかの立場じゃなく、一緒に楽しめるといい。
- ・ どこか（他県）で、「山に登りたい」という声に答えたという話を聞いたことがある。もちろん、全部の行程を自分の力で行ける人、途中までは行ける人、行けない人もいるけど、行けないひとや行けなくなったら、車で送迎して、スタートとゴールはみんなが共有していた。

## 4 認知症啓発活動

- ・ 診断された時から「何も分からない」「これからどうしたらいいのか」という気持ちが始まる。
- ・ そういう人に情報が届くように、診断する先生の手元に情報がとどくようにしてほしい。  
先生から一言あると安心もできるし、カフェも一歩進む後押しになる。



## 5 啓発活動等の取り組みについて

- ・ まだ、手続きに行っていたとき、窓口の人には本当に親切にしてもらえた。
- ・ (家族の立場) 主人が手続きが難しくなってから、いろいろな手続きをしないといけなくなった。それまで、手続きをしない者にとって、窓口に行くこと自体が分からないことだらけだし、ドキドキした。  
そういう人もいるから、誰にでも優しい対応をしてほしい
- ・ 手続きにいっぱい (3つくらいしないといけなくて)、どうも 500 円を落としていたらしく、あの時間にいたのは、〇〇さんしかいないと届けてもらったことがあった。普通なら、そんなことまで…と思うような対応をしてくれるところもある。

## 6 おれんじ図書館 in あいあむ

- ・ いろいろなところで、啓発が行われていて、みんなどんな図書を選んでいるんだろう。
- ・ どんな図書を共有したのか名前だけでも分かたらいいなって思うし、どんな本がおすすめだったのか分かたら、みんなの参考にできるのと思う。
- ・ 特に、子どもに向けた本とか、みんな知ってるのかな。

## 7 希望宣言周知活動

- ・ 仲間になってくれる人を見つけるのって大変と思う。
- ・ (自分は) はじめ、カフェに行くのを嫌厭していた。でも、行ってみたら、「もっと話したい」と思う。
- ・ 一人だけでも味方がいたら、外に出ていける。

## 8 子どもと一緒に♡認知症に優しい地域をつくりたい

- ・ カフェに行った時、ご家族と一緒にきていた子どもが「お兄さん。一緒に行こう」と手を引かれて散歩をしたことがある。
- ・ （この年で「お兄さん」と言ってくれるのかとそれも嬉しかったけど）その子が、自分が認知症と知っていたのかどうかわからないけど、普通に接してくれたことがうれしかった。
- ・ 原因（認知症）を知らなくても困っている人がいたら手助けができるような先入観のない小さい頃に、一緒に過ごす場所があったらいいなと思った。でも、素直だからこそ、時に傷つく言葉を言ってしまうこともあるから、どちらだけじゃなく教育も大切

## 9 認知症カフェ

- ・ コロナ禍で話す機会が減った人はたくさんいると思う。
- ・ カフェに行ったら、いっぱい話がしたいけど、初めていった時、知らない人ばかりの時、こんなふうに懐かしさとか感じながら話のきっかけがあるといい。
- ・ 何がはいっているかわからない箱に手をいれるのは、こわいな～

## 10 認知症になっても住みやすい街づくりを目指して

- ・ 平川のカフェは、下校時間に重なって、この前、子どもが来てくれた。認知症カフェが、本人も家族（、関係者）だけでなく、誰でも居場所になれる場所になるといい。
- ・ 学童の会場でカフェをしているところもあって、子どもの作ったもの、使っているものが会場には残っていて。人は入れ替わっても、子どもの物がそこにあるだけでも近い感じを感じる。

## 11 「今」を生きたい！～居場所、想いを紡ぐ～

- ・ 行きつく先は一緒に、こんな風につながりを持っていたら、認知症になっても、ならなくても支え合えるんだと思う。
- ・ お菓子屋さんみたいに、本当においしいお菓子だった。

## 12 若年性認知症と共に生きるためのパートナーづくり

- ・ この日は、いろいろなプログラムを考えて迎えてもらって、講演も頼まれていた。でも、あっちこっち、みんなが話が盛り上がって結局、講演はなくなった。みんなが自由に話せて、その場の雰囲気でも内容も変わるその柔軟さもいいなおもった。
- ・ みんな「お久しぶり」って声をかけてくれるけど、分からなかったのは…あれだったな。
- ・ このギター（音楽）は、主人が浜田省吾好きと聞いて、曲を選んでくれた。この方の奥さんは、ご主人に秘密で浜田省吾ファンだったみたいで。こうしたちょっとしたきっかけで、動きにつながるって思った。

## 13 地域力！～中学生と一緒に紙芝居を作成～

- ・ 紙芝居というアイデアが素敵。
- ・ このご夫婦は、こうして歩みを紙芝居として切り取れるほどに、様子を残されたんだと思う。そういうご夫婦であることも、それを形にできることもすごいことだと思う。
- ・ こんな取組みがあるということが、共有できるから、こうしたセミナーも必要なんだと改めて思った。

